

## めばえ保育園の自己評価

例年、年度末に各クラスの年間指導計画の見直しを全体で行い、保育に向かっていくが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初から、緊急事態宣言が発令され、登園自粛要請がなされるなど、計画通りの保育が行えなかった。また、宣言が解除されてからも、感染症対策の観点から、行事や保護者の園内立ち入りの制限を余儀なくされるなど、様々な対応に迫られた。

さらに“三密を避けよう”との方針も示されたが、子どもを育てる営み自体が“密接”であることから、日々の生活や体験を通して、成長していく子どもたちの育ちを保障していけるよう、子どもたちに対しては、なるべく制限をかけずに普段通りの日常生活を過ごせるようにしていった。（マスクの着用やお友達と距離をとることを求めない等）

クラス運営（集団活動）が本格的に始まったのは、6月頃からであったが、登園自粛だけでなく、コロナ禍ということもあり、子どもたちも、落ち着かない様子がしばらく続いた。そのような気持ちを、担任保育士が受け止めてあげることで、徐々にあそびに向かうようになり、さらには、お友だちとの生活やあそびを通して、仲間意識の芽生えや関係が深まっていく姿がみられるようになっていったのは良かった。

前年度の課題でもあった“保護者の方に保育を伝える（子どもの育ち）”ことについては、園内への立ち入り制限により、大きく阻まれてしまった部分もあったが、これまで同様、おたより帳（年少組）やクラス便りなどを活用しながら発信していった。さらに、保育場面の様子を写真で掲載することで、子どもたちは、その写真を見ながら、お友達と話し合ったり、思いを伝えたりする姿が見られたが、以前のように、親子で会話する場を設けることはできなかった。しかし、保育を伝えるよい題材であり、親子の会話が深まるものであることから、この題材を園のHP上にも載せていった（パスワードを設定して）。この取り組みに対しては、保護者のご意見を伺うことはできていないが、感染症対策を講じた上で、開催した運動会と生活発表会の感想においては、「お便りと行事（お友達と過ごしている普段の姿）を通して、我が子の育ちを感じることができました。」等のご意見を頂いたことから、一定の成果は得られたように感じている。

“幼児教育・保育の無償化”により、保育現場には、より質の高い保育が求められているが、さらに、感染症対策を含め、多様化・複雑化する課題へ柔軟に対応できるよう、取り組んでいく必要性を感じている。保護者の方々との連携をとりながら、子どもの最善の利益を追求すべく令和3年度の保育に臨んでいきたい。